



Ryukoku University



Faculty of Law

法政アクティブリサーチ成果報告書
(2020年後期～2021年前期)

はじめに

本報告書は、龍谷大学法学部・法政アクティブリサーチ第4期（2020年度後期～2021年度前期）の活動とその成果を報告するものである。この法政アクティブリサーチは、通常の講義とは異なり、他の受講者と議論や検討しながら、自分たちでテーマを設定・調査し、さらにインタビューなどの実地調査に当たって、自ら調査先を選定し、日時や内容、そしてインタビュー方法を調整、そのうえで集団での移動・調査日程を調整・決定するなど、「社会でも活きる」「アクティブな学び」を実践することを目的としている。そのため、この学びを、大学内で完結させるのではなく、常に社会とのつながりを維持することも目的としている。

もちろん、アクティブな学びの要素が必ずしも多くない「通常の講義」に慣れている学生がいきなり「アクティブな学び」を実践することは容易ではない。そのため、これまでの経験も踏まえ、本年度は、全クラス共通の授業としてアクティブリサーチの上記獲得目標を説明したうえで、各担当教員から調査活動の具体的なイメージや主体的学びの実践としてのワークショップを実施し、そのうえで本講義を進めるうえで必要不可欠なヒアリング調査（アポイントや質問状の作成）などに関する講義と模擬実践などに関する説明・講義などを行っている。

いうまでもなく、「アクティブな学び」を行うためには、これを支える教員、さらには学びの対象となると同時にリアクションいただく、社会で活動・活躍される多くのみなさまのご協力が不可欠である。本年度は、全クラス共通講義として、本講義を過去に受講し内定をもらっている4回生のみなさん、さらには法学部卒業生・関係者のみなさまに参加いただき、就職活動の具体的な内容や意識した点、本講義の内容や目的との関連について相談会という形式で対応いただいた。いずれも通常では意識しにくい大学の出口やその先の状況、そこへの向かい方や気を付けるべき点などを伝えるだけでなく、そのことと本講義との関係を意識するよう導いてくださる貴重な内容であった。

これと並行するかたちで、各クラスはそれぞれのテーマについて調査活動を行い、その成果を報告するに至っている。その内容は、本報告書の各パートを見ていただきたい。もっとも、昨年度に続き、「アクティブな学び」は新型コロナウイルスによる制限を大きく受けざるを得なかった。担当教員でも何度も話し合い、その影響を最小限に抑え、受講者の「アクティブな学び」を支えるべく工夫を行ったが、やはり制限をゼロにすることはできなかった。このような状況の中、学びを続けてくれた受講生の皆さん、インタビュー調査などに応じていただいた関係者の皆様には心より御礼申し上げる次第である。

最後に、受講生を皆さんに一言お伝えしたい。皆さんは、その程度には差があるだろうが、アクティブにこの科目を受講し、アクティブに学んだと思う。しかし、重要なのはここからである。皆さんはこの経験を言語化できますか？何を経験し、何を学び、それが自身にどのように根付き、どのような力になったか。「ああ、大変だったな」とか「これで力になったかな」と成り行きに任せては、これまでの学びは水泡に帰します。皆さんの力は自然と身につくものではない。この経験を皆さんの力にするか、単なる苦勞にするかは皆さん次第です。ここで終わらないでください。

2021年7月21日

蝉の音が聞こえ始めた京都にて

担当教員を代表して 齋藤司（法学部教授）

～総目次～

はじめに	・ ・ ・ ・ ・ 齋藤 司
法学部で展開する「法律以外の方法による人の行動のコントロール」に関する学びと実践	・ ・ ・ ・ ・ 齋藤 司
法政アクティブリサーチ・武井クラスについて	・ ・ ・ ・ ・ 武井 寛
新型コロナウイルスと「歴史」をめぐる一つの取り組み —「法政アクティブリサーチ」畠山クラス 2020 年度の活動を振り返って—	・ ・ ・ ・ ・ 畠山 亮
山田クラス 大テーマ：多文化共生社会への取り組み	・ ・ ・ ・ ・ 山田卓平
第 4 期(2020 年度後期～2021 年度前期) 法政アクティブリサーチの記録	・ ・ ・ ・ ・ 石東菜々子・林天紗・三嶋雅也・横谷美咲
各クラスの調査報告書	・ ・ ・ ・ ・ 齋藤 司クラス、武井 寛クラス、畠山 亮クラス、山田 卓平クラス
おわりに	・ ・ ・ ・ ・ 畠山 亮

齋藤 司クラス

日本における「ナッジ」の活用状況とその課題 ——龍谷大学生による龍谷大学での活用を目指して

はじめに	・ ・ ・ ・ ・ p24
第 1 部 ナッジの基礎理論と実践状況	
第 1 章 行動経済学の基礎理論	・ ・ ・ ・ ・ p25
第 2 章 ナッジの基礎理論	・ ・ ・ ・ ・ p33
第 3 章 世界におけるナッジの実践	・ ・ ・ ・ ・ p38
第 4 章 日本におけるナッジとその実践	・ ・ ・ ・ ・ p42
第 2 部 日本におけるナッジの現状と私たちの問題意識	
第 1 章 防災・減災とナッジ	・ ・ ・ ・ ・ p51

第2章 環境エネルギー分野におけるナッジ	p60
第3章 厚生労働分野におけるナッジ	p84
第4章 ビジネスにおけるナッジ	p98
総括	p113

武井 寛クラス

「働き方改革」の形骸化 ～労働時間から見る労働者に与える制度～

はじめに	p 119
1章：日本の過労の歴史	p 119
2章：労働基準法に関して	p 120
3章：日本の労働状況	p 127
4章：過重過労により生まれた事件	p 129
5章：労働基準法の改正	p 132
6章：時間外労働の上限規制	p 133
7章：高度プロフェッショナル制度	p 136
8章：フレックスタイム制	p 139
9章：労働基準法の問題点	p 146
10章：ヒアリング調査	p 157
おわりに	p 160
参考文献	p 165

島山 亮クラス

歴史的観光地と新型コロナウイルス ～「未来」に向けて「過去」を「現在」どう活かすか～

はじめに	p 175
第一章 伊勢地域における観光地の特徴とコロナ禍での政策について	p 177
第二章 ～花街を守り、未来へ受け継いでいくために～	p 198
第三章 金沢市の街並み保存における市民と行政の意識と with、after コロナにおける観光の在り方	p 213
第四章 体験型観光の魅力をどう活かすか	p 230
おわりに	p 250

山田 卓平クラス

多文化共生の実現のために

はじめに	p 253
第1章 「外国人の就労支援」	p 255
第2章 「外国人の教育支援」	p 264
第3章 「多文化共生の未来」	p 273
総括	p 279
法政アクティブリサーチでの学び	p 280
おわりに	p 283